

2014 年度 現代人間論系 論系ゼミ・卒業研究要項



最新情報は、論系ゼミ／ゼミ論文／卒業研究 Web ページ
で随時確認するようにしてください。



早稲田大学 文化構想学部

2013 年 9 月 (作成) 早稲田大学文学学術院事務所

目 次

1. ゼミと卒業研究	・ ・ ・ ・ ・ P1
2. ゼミ一覧	・ ・ ・ ・ ・ P1
3. ガイダンス日程	・ ・ ・ ・ ・ P2
4. 申請日程	・ ・ ・ ・ ・ P2
5. 募集定員と申請対象者	・ ・ ・ ・ ・ P2
6. 卒業研究とは	・ ・ ・ ・ ・ P3
7. ゼミ・卒業研究申請方法	・ ・ ・ ・ ・ P4
8. 注意・伝達事項	・ ・ ・ ・ ・ P6
9. 留学を予定している方へ	・ ・ ・ ・ ・ P6
10. お問い合わせ先（論系室）	・ ・ ・ ・ ・ P6
11. 各ゼミ要項	・ ・ ・ ・ ・ P7～

1. ゼミと卒業研究

少人数制で学生同士が刺激しあう授業がゼミです。論系演習が、各セメスターで完了するのに対して、ゼミは3年次から2年間連続で履修し、課外授業や合宿も交えながら、調査・研究・発表に臨みます。また、グループ研究を通じて自分の研究テーマを深めることもゼミの特長です。卒業時にはゼミ論文を提出します。

もちろん、ゼミを選択せず、現在、文学部で行っている卒業論文と同様の「卒業研究」を選択し、個人の関心を深め論文・研究成果としてまとめたものを提出することもできます(専門演習の必修条件が異なります。「学部要項」を確認してください)。

2. ゼミ一覧

各ゼミの詳細な情報は、9月19日(木)公開のゼミ・卒業研究要項で掲載します。新任教員追加分があった場合は、9月25日(水)に更新します。

【現代人間論系】

	科目名	担当教員名
1	精神文化論ゼミ(聖性文化論)	田島 照久
2	精神文化論ゼミ(生と精神の言説)	安藤 文人
3	精神文化論ゼミ(ジェンダーとセクシュアリティの視座)	草野 慶子
4	関係構成論ゼミ(プラクティカル・エシックス)	御子柴 善之
5	関係構成論ゼミ(生命と人格)	村松 聡
6	人間発達論ゼミ(現代人のライフストーリー)	大久保 孝治
7	人間発達論ゼミ(子どもの関係発達論)	大藪 泰
8	人間発達論ゼミ(クリエイティヴ現代社会論)	高橋 透
9	人間発達論ゼミ(現代人の心理)	小塩 真司
10	福祉社会論ゼミ(少子高齢社会論)	増山 均
11	福祉社会論ゼミ(ディスアビリティと現代)	岡部 耕典
12	関係構成論ゼミ(社会の変化と人間関係)	石田 光規

※新任の石田光規先生のゼミを追加しました。(2013年9月25日)

3. ガイダンス日程

論系	日程・時間	場所
現代人間論系	9月25日（水）14:30～16:30	38号館 AV 教室

※ガイダンスに参加できない場合は、ガイダンス内容を1次申請開始日（申請日程参照）までに、論系室に確認してください。質問がある場合も同様です。

4. 申請日程

申請機会	内容	日程	場所（掲載場所）
1次申請	1次選考方法発表	10月9日（水）	掲示板およびホームページ
	1次申請受付	10月9日（水）～16日（水）	Waseda-net ポータル申請フォーム
	1次申請状況発表	10月17日（木）	掲示板およびホームページ
	1次変更申請期間	10月17日（木）～21日（月）	Waseda-net ポータル申請フォーム
	1次選考	10月25日（金）～11月11日（月）	
	1次選考結果発表	11月14日（木）	Waseda-net ポータルのお知らせ
2次申請	2次募集ゼミ・定員・選考方法発表	11月14日（木）	掲示板およびホームページ
	2次申請受付	11月14日（木）～18日（月）	Waseda-net ポータル申請フォーム
	2次選考	11月22日（金）～12月2日（月）	
	2次選考結果発表	12月4日（水）	Waseda-net ポータルのお知らせ
3次申請	3次選考	12月4日（水）～11日（水）	
	3次選考結果発表	12月19日（木）	Waseda-net ポータルのお知らせ

※卒業研究を選択する場合も申請が必要ですが、選考はありません。

※3次の申請・選考方法は、12月4日以降に論系より通知します。

5. 募集定員と申請対象者

	内容
募集定員	ゼミ：各ゼミ単位で設定する 卒業研究：特になし
申請対象者	【1次申請】 ※2014年度に3年次生になる現代人間論系所属の全学生を対象とします。 【2次申請】 ※1次選考結果発表時点での未決定者を対象とします。 ※1次選考で決定者が定員に満たなかったすべてのゼミで募集します。 ※1次選考で選考からはずれたゼミに再度申請することはできません。 【3次申請】 ※2次選考結果発表時点での未決定者を対象とします。 ※2次選考で決定者が定員に満たなかったすべてのゼミで募集します。 ※1次・2次選考で選考からはずれたゼミに再度申請することはできません。

6. 卒業研究とは

ゼミを履修せず、教員の個別指導を受けながら、4年次に作成・提出する論文です。

卒業研究を選択し、個人の関心を深めて研究をまとめていくのも、文化構想学部4年間のまとめとして大いに意味のあることです。卒業研究の提出を希望する場合には、Waseda-net ポータルで行うゼミ・卒業研究申請（1次～3次それぞれ）の中で卒業研究希望の回答欄が設けてありますので、そこで「卒業研究」の回答をしてください。卒業研究を選択した場合は、専門演習の修得要件が、ゼミを選択した場合と異なります。

なお、ゼミ論文、卒業研究の指導には、文学学術院の教員が分担して当たります。ゼミ論文の指導にはゼミの担当教員が当たることになります。質の高いゼミ指導、卒業研究指導をするために、教員ひとりあたりが指導できる学生数については制限があります。卒業研究を選択する場合も、ゼミ選考で希望どおりのゼミ履修ができない場合があるのと同様に、各教員の指導学生数の関係で、希望通りに卒業研究指導教員にならない可能性もありますので、ご承知おきください。

卒業研究を選択する事由として、以下のような例が考えられます。

- ・みずからの関心領域がひとつのゼミ、あるいはプログラムや論系、さらには学部までも越えて二つ以上の分野にまたがっているような場合。
- ・論系に置かれたゼミのテーマがいずれも自分の関心とうまく合わない場合。
- ・論文の性格、あるいはテーマの点で、教員から個別指導を受けて作成を進めるほうが、より適していると思われる場合。
- ・3、4年次ともに少しでも多くの演習を履修して学修を深めたいと思っている場合。

（1）必修単位数について

論系ゼミを選択するか、卒業研究を選択するかによって、必修の専門演習単位数に違いが生じます。ご注意ください。

必修単位数一覧表（抜粋・表内の数字は単位数、○印は選択履修科目を表す）

	1年次	2年次	3年次	4年次	必修単位数
論系ゼミを選択する場合					
専門演習		○	○	○	16(12)
論系ゼミ			4	4	8
ゼミ論文				4	4
卒業研究を選択する場合					
専門演習		○	○	○	24(20)
卒業研究				4	4

（ ）内の単位数は夜間特別枠の学生

（2）卒業研究を選択した場合のスケジュール及び手続き

年次	項目	実施時期（予定）
3年次	卒業研究ガイダンス	7月
	「卒業研究計画書」提出	10月
	指導教員決定・仮指導	11月～12月
4年次	卒業研究提出	12月
	口述試験・報告会	未定

①「卒業研究計画書」について

提出時期（予定）：2014年10月

提出方法（予定）：Waseda-net ポータルより提出

※提出時期・提出方法の詳細は、決定次第、別途掲示します。

※卒業研究計画書への記載事項を基に、各論系の教員が指導教員を決定します。希望の教員に指導を受けられない場合もあります。(指導教員のルールについては、下記③を参照のこと)

②仮指導について

実施時期 (予定) : 2014 年 11 月～12 月

実施方法 (予定) : 各論系ごとに決定

※詳細については、論系室に確認してください。

※「卒業研究計画書」を提出しても、仮指導を受けない場合は、翌年度以降卒業研究を提出することはできません。留学等で仮指導実施時期に不在の場合は、事前に文学学院事務所に申し出てください。

③指導教員について

卒業研究選択者の指導教員については、所属論系内でゼミを担当していない教員が最優先で担当することとなっています。

			文化構想学部	
			ゼミ論文	卒業研究
文化構想学部専任教員 (任期付・助教を含む)	ゼミ担当者	自論系	◎自ゼミ	○
		他論系・他学部		○
	ゼミ非担当者	自論系		◎
		他論系・他学部		○
文学部専任教員（任期付・助教を含む）				○
他学院専任教員				×
非常勤講師				×

※ ◎最優先、○担当学生数を考慮のうえ可能。×担当不可。

7. ゼミ・卒業研究申請方法

(1) Waseda-net ポータルログイン画面へ

Waseda-net ポータルを利用するには、大学から配付された Waseda-net ID とパスワードが必要です。ポータルログイン画面は、早稲田大学ホームページの「在学生の方」ページから選択するか、URL (<https://www.wnp.waseda.jp/>) を直接指定することで表示できます。

(2) ゼミ・卒業研究申請フォーム画面へ

Waseda-net ポータルの「左メニュー」⇒「システム・サービス」⇒「申請フォーム入力」を順番にクリックしてください。

(3) ゼミ・卒業研究申請フォームログイン

発信元「文化構想学部」、申請フォーム名称「〇〇論系 論系ゼミ／卒業研究 申請フォーム」をクリックしてください。

文化構想学部	〇〇論系 論系ゼミ／卒業研究 申請フォーム
--------	---------------------------------------

(4) 申請内容記入

- ①学籍番号を半角で記入してください。
- ②漢字氏名を記入してください。
- ③連絡先（携帯電話番号）をハイフン付きの半角で記入してください。
- ④志望のゼミまたは、卒業研究を選択してください。
- ⑤ゼミを選択した学生は、必ず志望理由を記入してください（400 字以上）。

志望理由とは別に提出物を求めるゼミもあります。提出方法等の詳細は、ホームページと掲示板でお知らせします（ホームページ：http://flas.waseda.jp/cms/campus_guide/study/seminar_and_graduation_research/）。

- ⑥登録ボタンを押してください。※申請期間中であれば、何度でも選択内容・記入内容を変更できます。
- ⑦Waseda-net ポータルメールアドレス宛に、「申請受付メール」が届きます。必ず、コピーして保管してください。

申請フォーム

Welcome

[閉じる](#)

申請フォーム>[申請](#)>文化構想学部 ○○論系 論系ゼミ/卒業研究 申請フォーム

27

登録

⑥

【文化構想学部】○○論系 論系ゼミ/卒業研究 申請フォーム

1 学籍番号を記入してください。

※ハイフン前までの学籍番号を半角英数で入力してください(例:1T*****).

①

2 漢字氏名を記入してください。

②

3 連絡先(携帯電話番号 0X0-XXXX-XXXX)を記入してください。

※ 論系、担当教員、事務所から緊急連絡をする場合がありますので、日中通じやすい携帯電話番号を記入してください。
なお、Waseda-netメールアドレスについては、別途事務所から論系、担当教員に伝えます。

③

4 希望のゼミまたは卒業研究を選択してください。

※ 選択は、1つしかできません。

☐
☐
☐
☐
☐
☐

④

5 設問「4.」で論系ゼミを選択した場合は、志望理由(400字以上)を記入してください。

※ 志望理由内容を指定しているゼミもありますので、下記ホームページの「ゼミ要項」で確認してください。
<http://www.waseda.jp/bun/seminar/yoko/>

⑤

※登録まで 120 分を経過するとセッションタイムアウトにより記入内容が失われますのでご注意ください。

8. 注意・伝達事項

- (1) 本要項の内容は、変更となる場合がありますので、申請前に必ずホームページで再度確認してください。
また、不明な点がある場合は、申請前に論系室または運営主任（あるいは担当教員）に確認してください。
- (2) 1次～3次申請で決定になったゼミを変更することはできません。
- (3) 合宿、フィールドリサーチ、博物館見学等で、費用がかかる場合があります。各ゼミ要項には、合宿、フィールドリサーチ、博物館見学等を行う予定について記載してありますので、ゼミの選択の際に留意してください。
- (4) 「2. ゼミ一覧」に記載されている曜日・時限でゼミが行われる予定です。確定した曜日・時限については3月中旬の自動登録結果発表時に発表します。
- (5) 半年以上ゼミを履修した後の卒業研究への変更および、ゼミ変更については、春期末（6～7月）と秋期末（1月）に申請期間を設けます。ゼミから卒業研究に変更した場合は、修得したゼミの単位が専門演習として自動的に振り替えられます。加えて、4年次の演習登録制限単位数については、＜卒業研究を選択する場合＞の単位数が適用されます。また、ゼミ変更については論系および希望先のゼミ担当教員の検討・選考の結果、認められない場合があります。

9. 留学を予定している方へ

2013年秋期から留学に行く方は、留学前に**必ず**論系室に行き、運営主任と連絡を取ってください。志望内容（ゼミ、卒業研究）や留学目的などを伝え、運営主任の指示に従ってください。なお、**留学予定であっても、ゼミ・卒業研究の申請は、「4. 申請日程」にある期間中に、「7. ゼミ・卒業研究申請方法」の手順で必ず行なってください。**

面接が受けられない場合は、事前に必ず運営主任までご相談ください。また、留学中は、所属するゼミのテーマに対応する内容の科目を、履修・修得することで、ゼミ単位として振替られる可能性があります。振替の手続きは、帰国後に行われます。留学先においても、必ずゼミ担当の教員と連絡を保つようにしてください。詳細は、運営主任にお尋ねください。

10. お問い合わせ先（論系室）

ゼミや卒業研究、専門演習のことなどで不明な点がある場合は、以下の論系室または運営主任にご相談ください。

論系室：33号館 701（7F） 電話：03-5286-3558 E-mail：human@list.waseda.jp

運営主任：岡部 耕典

11. 各ゼミの情報

各ゼミの詳細な情報は、9月19日（木）公開のゼミ・卒業研究要項で掲載します。新任教員追加分があった場合は、9月25日（水）に情報を更新します。

論系ゼミ／ゼミ論文／卒業研究 Web ページ

（http://flas.waseda.jp/cms/campus_guide/study/seminar_and_graduation_research/）で確認するようにしてください。

1	担当教員	科目名	定員の目安
	田島 照久	精神文化論ゼミ（聖性文化論） 副題：人間の本質を「聖なるもの」との関わり方から探る プログラム：精神文化論	14 名

ゼミの主旨

近代以降の社会は人類が初めて経験する「非聖化された社会」であるといわれます。私たち現代人にとっては科学的思考がものを考える根本枠組みとなっていますが、そうした科学的知見のたどり着いた結論の一つは、すべての出来事には必然的因果関係に縛られない不確定性、偶然性があるということでありました。こうした科学的知見は伝統的宗教に対して、これまでの必然的全知という神概念を撤回する必要性を突き付けるものであるとされます。

われわれはこうした生の偶然性の中で、それでもこの世界が調和ある見通しのきく安全な世界であってほしいと願い、そうしたコスモス願望に突き動かされて「聖なるもの」を立て、この「聖なるもの」との交流を通じて生を充実したものとして意味づけようとしてきました。こうした遺産が神話や伝承、民間習俗や祭りであり、あるいは宗教美術・音楽・文学といった芸術的な表象であり、また宗教の規範的在り方を探る宗教哲学・思想的言説であるといえます。そういった「聖なるもの」との多様なかわりから文化を見てみようとするのがこのゼミの主旨です。

授業内容

「聖なるもの」とのかかわりはあらゆる文化領域にまで浸透していますので、各自興味あるテーマを自由に決めて研究をすすめるというのがこのゼミの基本コンセプトですが、どのような理論的理解が可能であるかを知り、またそのための基礎知識を獲得するために、3年次にはミルチャ・エリアーデの『聖なるものと俗なるもの』をテキストとして講読します。講読と並行して自分の興味あるテーマを少しずつ明確化する作業を進め、中間発表やレポート作成も経験してもらいます。

4年次には3年次のゼミ活動の成果を踏まえて、各自が研究テーマを具体的に設定し、論文（ゼミ論）を書き上げることになりますが、何度かの中間発表を順番で行い討論を通じて論点を深めることを目指します。

シラバス

【3年生】

春期：ミルチャ・エリアーデの『聖なるものと俗なるもの』（邦訳『聖と俗』ユニヴェルシタス叢書）を2、3人ずつのグループに分けて講読箇所を分担して、内容のまとめ、語句や概念の説明を行ってもらいます。

秋期：個人、テーマを自由に設定して順番に発表を行います。

【4年生】

春期：毎週、1名ないし2名ずつ、ゼミ論の途中経過を報告してもらいます。

秋期：その都度テーマを定め、討論形式の演習とします。

3、4年合同のゼミ合宿を夏に行い、3年生は秋期に発表するテーマの中間発表、

4年生はゼミ論の中間発表をします。

教科書

3 年生：『聖と俗』ユニヴェルシタス叢書

参考文献

必要に応じてその都度教場で指示します。

評価方法

【3 年生】

学年末のレポートと合宿を含めた平常点によって評価します。

【4 年生】

合宿を含めた平常点によって評価します。

授業実施曜日・時限（予定）

【3 年生】火曜日 3 時限に行います。

【4 年生】木曜日 5 時限に行います。

年に数回木曜日 5 時限に 3 年 4 年合同でゼミを行うことがありますので、3 年生は木曜日 5 時限も空けておいてください。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2 年春学期までの成績を参考にする

2	担当教員	科目名	定員の目安
	安藤 文人	精神文化論ゼミ（生と精神の言説） 副題：言葉とナラティブから生の有り様を探る プログラム：精神文化論	13 名

授業内容

【3年生】

私たちが生きて行く中で、言葉とそれによって構築された「ナラティブ」がどのような働きをしているか、あるいは、どのように私たちの生をかたちづくっているのか、多面的に考察する（ナラティブ・スタディーズ）。まず文学、言語学、修辞学などを中心とする、ナラティブ分析のための基礎理論を学び、それらを応用しながら、主に以下のような観点からケース・スタディーを試みる。

- ①自伝、体験記、日記・書簡など「わたし語り」のジャンルに属する言説をとりあげ分析する。
- ②小説を中心とする文芸作品をとりあげ、「生」の言語化とそれを通じた「人物」の構築過程を探る。
- ③メディア・広告などで用いられる言葉・言説をとりあげ、レトリック分析などを施すことで、それらが現代の社会状況においてどのように機能しているかを捉える。

【4年生】

前年度の学習に立って、各自が研究方法とテーマを選択・設定し、発表と相互批評を通じてゼミ論の作成に取り組む。

シラバス

以下は現時点での予定。授業開始後は、ゼミ生諸君と相談しながら柔軟にスケジュールを設定していく。

【3年生】

4月～7月 言説・ナラティブ研究の具体的な方法・理論を学習し、その成果を生かしてグループによる研究発表を行う。

夏休み合宿 春期に習得したアプローチを用いて個人研究を行い、合宿において発表する。

10月～12月 初年度は、4年生と合同のグループによる文献研究もしくはテーマ研究。平行して個人課題を設定し、3年レポート（事例研究）を作成。

1月 4年生が提出したゼミ論について合評会に参加、割り当てられたゼミ論についてコメントを行う。また、3年レポート（事例研究）をまとめる作業を行い、ゼミ論の方向性を探る。

【4年生】

4月～7月 3年次に続けて言説・ナラティブ研究の方法・理論を学習。理解を深めながらゼミ論への具体的な適用について各自検討する。3年生とともにグループによる研究発表を行う。同時にゼミ論の研究計画を立て、必要な調査・分析を行う。

夏休み合宿 ゼミ論の一部について、発表を行う。

10月～12月 3年生とともに文献研究もしくはテーマ研究を行う。平行してゼミ論を執筆。順次報告発表を行う。12月最終ゼミ日にゼミ論を提出。

1月 ゼミ論合評会に参加。提出したゼミ論文をゼミ論集にまとめる作業を行う。

教科書

特に設けない。

参考文献

ゼミに入る前に読んでおくの良いものを一部だけ挙げます。

1. G. レイコフ、M. ジョンソン『レトリックと人生』（大修館書店、1986）
2. ケネス・J・ガーゲン『あなたへの社会構成主義』（ナカニシヤ出版、2004）
3. 片桐雅隆『自己と「語り」の社会学』（世界思想社、2000）
4. 浅野智彦『自己への物語論的接近—家族療法から社会学へ』（勁草書房、2001）

評価方法

【3年生】

春期は平常点（授業等での活動状況）、秋期は年度末のレポート（事例研究）によって評価する。

【4年生】

授業等での活動状況、報告発表の内容などによって評価する。

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】 2 学年合同 1 クラスとして火曜日 5 時限に行なう。

ただし、授業の延長、またはグループごとの活動によって 6 限まで費やすのが通例。

6 限は空けておいてください。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2 年春学期までの成績を参考にする



参考：これまでのゼミ論題目例

＊過去のゼミ論集は現代人間論系論系室で閲覧できます。

「物語における“魔女”—『白雪姫』とその変遷—」「説得のレトリックの構造 ～宗教的言説に軸足を置いて～」、「ウェブ炎上における言語の分析及び考察」「齋藤祐樹」とは何か—現代のヒーローとメディア—」「自虐論～現代社会の「ネジレ」～」「アウシュヴィッツと限界の言葉」「漫才の笑い」「テキストとしてのポップ・ミュージック」「擬人化された携帯電話—CM 分析から分かる携帯電話の存在とは—」「絵本における絵と詞の相互関係」「自己」という存在の不確かさ—構成主義と物語論的視点から—」「メタファーとしての病の言説」「志賀直哉におけるアンドレ・ジッドの受容—志賀の〈対照的思考法〉をめぐって—」「国語教材としての近代文学作品の読解と PISA 型読解—国語教材としての『走れメロス』—」

3	担当教員	科目名	定員の目安
	草野 慶子	精神文化論ゼミ(ジェンダーとセクシュアリティの視座) プログラム：精神文化論	14 名

授業内容

【3年生】

本ゼミでは、文化研究としてのジェンダー研究、セクシュアリティ研究の立場に立ち、ジェンダーとセクシュアリティをめぐる文化的・社会的問題を取り上げ、考察していく。

【参考】2013 年度春期は、ジェンダーの基本的概念、ジェンダー研究の現状について学び、続いて、現代社会におけるジェンダーをめぐる具体的問題、さらに広告におけるジェンダーイメージをめぐる考察を行った。

2013 年度秋期は、セクシュアルマイノリティの主題をとりあげる（2013 年 8 月記す）

また、その過程で、以下のような問題群に触れる機会もあるだろう。すなわち、

「自己と他者」。けっして他人と完全にはわかりあえないのに他人なしでは一日たりとも生きていけない、そしていつか必ず死んでしまう自分について。

性愛（生殖を含む）と一体不可分のものとしての「死」について。

ゼミ参加者自らがこれらに関する各自の思想を構築し、今後の人生、他者との共生のなかでその意義を発見していく契機となることを目指す。

【4年生】

上記、3 年生と共通の授業内容に加えて、

前年度の成果をもとに、各人が各人の研究主題を決め、各人の選択した方法論に則って、ゼミ論を完成する。

シラバス

【3年生】共通の文献の講読。ゼミ生による発表

春・秋期とも、年度ごとに基本文献を複数選択し、講読する。ゼミ参加者の発表により進行する（担当箇所の要約と解説、各自固有の問題設定とその展開など）。外国語文献の講読は予定していません。

【4年生】共通の文献の講読。ゼミ生による発表/ゼミ論の執筆

春期は上記、3 年生と同様のシラバスを消化し、それと同時進行で、各自ゼミ論の執筆に取り組む。毎週の授業時には、各自がゼミ論に関する報告を行う。ゼミ論完成・提出後には、報告会を予定。

教科書

【3年生】【4年生】授業中に配付する。

参考文献

【3年生】【4年生】授業中に多数の文献に接します。それらがすべて参考文献です。

評価方法

【3年生】【4年生】

平常点（各自の発表、議論への参加状況、授業の出欠）、ならびに、提出を求める課題を評価の対象とする。

4年生はゼミ論の執筆過程と、提出されたゼミ論そのものを、ともに評価の対象とする。

授業実施曜日・時限（予定）

月曜5限ならびに6限

3年生は5限、4年生は6限に登録されますが、基本的に合同で授業を行うので、3，4年生とも、5限と6限の時間をあけておくこと。

【3年生】

5限：4年生と合同で文献購読を行う。

6限：5限で講読する文献に関連した文献の講読、グループワーク等を行うことがある。登録上は5限のみとなるが、6限に他の授業を登録することはできません。

【4年生】

5限：3年生と合同で文献講読を行う。

6限：ゼミ論指導を行う。登録上は6限のみとなるが、5限に他の授業を登録することはできません。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書（必須）
- ・2年春学期までの成績を参考にする

4	担当教員	科目名	定員の目安
	御子柴 善之	関係構成論ゼミ(プラクティカル・エシックス) 副題:ともに生きる倫理を考える プログラム:関係構成論	13名

授業内容

私たちはともに生きている。くわしく言えば、他の人間と関係をもち、関係を構成しながら生きている。そこに人間関係（自分自身への関係を含む）を規制する行為規範（「きまり」）が生まれ機能することになる。この行為規範に対して問いを向け、その根拠を探ることで、それはまっとうな「きまり」なのだろうかという問いが、このゼミの活動内容である。

さて、行為規範は日常的には明確に意識されていない。それが意識されるのは、往々にして、私たちが、自分の生きる社会に道徳的問題を見出したときである。この観点から、行為規範への問いは、「私たちの社会はどうあるべきか」という問いを誘発するだろう。他方、道徳的問題の意識は、そもそも行為規範とは何で、その正当性・妥当性はどのようにして保証できるのか、という問いをも生み出す。したがって、このゼミは、一方で、現代社会の固有の性格ならびにその道徳的問題を把握し、その解決を求めて考え抜く研究と、他方で、道徳的問題の抽象的な根拠を考え抜いて、哲学的な思索の蓄積に接続する研究の二面をもつことになる。

【3年生の目標】

- 1、新聞記事などに見られる現代社会の道徳的問題を検討し、それがどのような意味で問題なのかを把握できるようになる。そのために哲学・倫理学のさまざまな概念を理解することが必要になる。
- 2、世界に起きている道徳的問題に関心に向け、基礎外国語の知識を用いて、海外の新聞・雑誌などから紹介できる力をつける。そのために基礎外国語の実力を磨くことが必要である。
- 3、上の1と2の作業を通じて、本ゼミにおける自分自身の研究テーマを見つける。
- 4、グループ研究に参加し、共同研究を通して、自分の意見の輪郭を把握する。

【4年生の目標】

- 1、現代社会の道徳的問題に対して一定の見解を提示するために、「どうでもいい」という思いを振り払って考え抜く。そのために、参加者が自分の関心のある倫理的テーマを追求する。
- 2、グループ研究に参加し、共同研究を通して、自分の意見を深める。
- 3、ゼミ論文のための研究を遂行し、中間報告を行ない、論文を完成し提出する。

シラバス

- 1、参加者が、みずから興味のある記事を収集し、その道徳的問題としての本質を全体で検討する。
- 2、参加者の関心に基づいて、共同研究グループを作り、グループ研究の計画を立てる。
(2013年度には超高齢社会研究、企業倫理研究、平和の倫理研究、新情報社会研究、宗教倫理研究、子育て倫理研究のグループが形成された。)
- 3、各人が基礎外国語の知識を活用して、各学期一回、海外の道徳的問題事情を報告する。
(この報告の題材として英語の記事を用いることも許容される。)
- 4、各学期につき一回、関係構成論プログラムの合同ゼミに参加する。
- 5、共同研究グループの中間報告を行ない、全員で討議する。

教科書

そもそも教科書を採用するかどうか、するとしたらどのような書物を教科書として採用するか、については、本ゼミの参加者の希望に基づき、参加者による話し合いを経て、決定する。なお、現在は教科書を使用していない。

参考文献

H・T・エンゲルハートら『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年

K・S・シュレーダー＝フレチェット編『環境の倫理』（上・下）、晃洋書房、1993年

T・ビーチャムら『企業倫理学』（1・2・3）晃洋書房、2005年

P・シンガー『私たちはどう生きるべきか』法律文化社、1995年

越智貢編『情報倫理学入門』ナカニシヤ出版、2004年

森岡正博編『「ささえあい」の人間学』法蔵館、1994年

H. LaFOLLETTE, The Oxford Handbook of Practical Ethics, Oxford University Press, 2003.

評価方法

各学期、1回の短いレポートと海外記事報告の提出を条件として、ゼミ活動における平常点で評価する。なお、平常点の評価においては、授業時における討議への積極的な参加を重視する。

関連 URL

環境省、厚生労働省、国連開発計画（UNDP）などのホームページを参照することになるだろう。

履修モデル

参加者には倫理学と社会学に関連する諸科目を履修してもらいたい。倫理学の＜規範的方法＞と社会学の＜記述的方法＞を融合させつつ思考することが、このゼミの目的のひとつだからである。

ゼミ紹介

このゼミは、現代社会・現代人を倫理的に論じる具体性をもつとともに、高度に抽象的な道徳性にも議論を及ぼそうとする。したがって、道徳の名において現代社会・現代人を嘆き断罪するものではないし、道徳によって社会問題が解決するような幻想を紡ぎだすものでもない。むしろ、私たちの社会で「道徳の問題」と言われているものの正体を見定める＜道徳批判＞を行うという側面をもつものである。まじめな研究・討議のなかに、ポジティブに考え抜く（「どうでもいい」という思いを振り切る）態度を共有したい。また、このゼミは、教科書的な知識を習得することを目的とするものではなく、さまざまな授業で得た知識を提供しあって、内容ある討議を行おうとするものである。

授業実施曜日・時限（予定）

2学年合同で木曜日6時限に行う。ただし、毎回、若干の授業時間延長が予想される。4年生のゼミ論文指導は別に曜日・時限を指定する。

備考

「ゼミ」という言葉を聞いて、「合宿！」というひらめきをもった方はご注意ください。本ゼミでは、合宿を行いません。ゼミ生には、「合宿」なしでも真剣に討論できる関係を形成できる人であって欲しいと思います。また、ゼミの希望があれば、休業期間を利用した夏休み特別企画を開催します。（2011年は「ともに生きる」、2012年は「愛について」、2013年度は「幸福な死」をテーマとしました。）

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2年春学期までの成績を参考にする

5	担当教員	科目名	定員の目安
	村松 聡	関係構成論ゼミ(生命と人格) 副題: バイオテクノロジーの進歩と影響に直面して人間を考える プログラム: 関係構成論	13 名

授業内容

【3 年生】 バイオテクノロジーは、IT と並び、21 世紀の花形技術であるといわれています。一方で、遺伝子操作、再生医療など、バイオテクノロジーは様々な形で今まで私たちが考えもしなかった倫理的問題を投げかけ、人間観を変えつつあります。私たちの身体とは何か、どこまで操作してよいのか。人間の生死とは何か、人間は無限に生きたいのか。個人の尊厳とは何か。現代の生命倫理が投げかけるこういった問題を考えていきます。生命倫理の具体的問題を取り上げながら、人間とはなにか、深く考えていくための倫理的、哲学的視点と方法を身につけます。

【4 年生】

シラバス

【3 年生】

春学期：倫理に関する基本的な文献を読みながら、その基本にある倫理観を学びます。

秋学期：生命倫理のテーマたとえば、ES 細胞、安楽死、遺伝子操作などから幾つかのトピックを選び、具体的なケースを考察し、分析します。

【4 年生】

個人個人のテーマを選び、ゼミ論の構想を考え発表することが中心となります。

教科書

【3 年生】 【4 年生】

テキストは学生と相談のうえ決定します。生命倫理を中心としますが、IT に関係する情報倫理、あるいは動物の倫理、企業倫理など、皆さんの関心に応じて、人間理解が問題になる倫理的問題を広くとりあげるつもりです。

参考文献

【3 年生】 【4 年生】

『現代倫理学入門』加藤尚武著、講談社学術文庫 1997 年

『生命医学倫理』トム・L・ビーチャム/ ジェイムズ・F・チルドレス著、成文堂、1997 年

『バイオエシックスの基礎』加藤尚武・飯田亘之編、東海大学出版会、1988 年

『ヒトはいつ人になるのか』村松聡著、日本評論社、2001 年。

『複製されるヒト』リー・M・シルヴァー著、翔泳社、1998 年。

評価方法

【3年生】【4年生】

授業での発言、発表と Presentation、学期末のレポートを総合的に評価します。

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】2 学年合同 1 クラスとして木曜 5 時限に現代人間論系室で行います。しかし、6 限へ必ず延長しますので、木曜日 6 限は他の科目を入れないようにしてください。

ゼミ紹介

倫理学（エシックス）は原点においては、「人間のしあわせとは何か」、「人間は何を求めているのか」を問う学問であり、そこから「人間とは何か」を考える哲学的な人間理解へと発展しました。ゼミでは、この原点から出発し、広く哲学的に人間を探求します。

倫理学・哲学の理解と、実際の社会問題に取り組む姿勢を同時に養うことを目指す欲張りなゼミと考えてください。

備考

積極的な授業参加を求めます。「沈黙は悪徳」ですので、心してください。発言しない学生はいないもの、とみなします。汗をかいて手に入れた知のみが、皆さんの一生の血となり、肉となります。そういうつもりで、がんばりましょう。

このゼミを取る皆さんは、講義「応用倫理学」（春学期）、「生命倫理」（秋学期）をできるだけ前もって受講してください。must とは言いませんが、講義では、倫理学と生命倫理全般にわたって議論するために必要な知識や問題点を解説します。ゼミを取ろうか、考えて迷っている 2 年生の皆さんは、演習「生命医療の論理と倫理」（秋学期）で、ゼミの「雰囲気」と議論の仕方を試すことをお奨めします。

ゼミ選択で重要なのは、本人の関心です。倫理的問題意識、哲学的関心、IT やバイオテクノロジーなどの具体的問題への興味などが自分にあるかどうか、そこがゼミを選ぶ際の一番のポイントです。それを、確かめるために、お試しに講義、演習などをとりましょう。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書、場合によっては面接します。
- ・2 年までの成績を参考にしますが、まず何より本人の関心、興味を重んじます。興味と関心が薄いと、半年以上にわたってゼミ論を準備し、執筆し、完成にまで至ることはできません。

6	担当教員	科目名	定員の目安
	大久保 孝治	人間発達論ゼミ(現代人のライフストーリー) 副題: プログラム： 人間発達論	15名

授業内容

ゼミのテーマである「ライフストーリー」には2つの意味がある。1つは、個人が語る(書く)自分自身の人生の物語であり、もう1つは、ポピュラーカルチャー(小説、映画、TVドラマ、アニメ、漫画、歌曲、CMなど)の中に遍在するさまざまなタイプの人生の物語である。個人は自分自身の人生の物語を語る(書く)ときに、後者をモデルとして利用している(あるいは無意識のうちに影響を受けている)。授業では、両者をともに研究の対象とする。現代という状況の中で、人々はどのように自分の人生を語っているのか、意味づけているのか、その意味付けに根拠を与えているものは何なのか、そうした問いをめぐって、現代人の人生の困難と希望について考えていきたい。研究に必要な方法論として、社会学と心理学(とくに自己心理学・発達心理学)に重点を置いて勉強していく。

言うまでもないことだが、ゼミは協働作業の場である。「現代人のライフストーリー」というテーマや、社会学や心理学に関心があるというのは、ゼミ生の最低限の共通事項で、関心の具体的な広がり方はさまざまであろう。性格が十人十色であることはいうまでもない。そういう学生たちがゼミという公共圏を形成・維持していくためには、ゼミというプロジェクトを推進していくためには、協調性やコミュニケーション能力が必要とされる。自分だけで思う存分にやりたいという学生には、ゼミではなく、卒業研究という選択肢が用意されている。

ゼミでの2年間の活動は、最終的には、ゼミ論としてまとめられる。ゼミで鍛え上げた「読む」「語る」「聴く」「議論する」「書く」という一連の知的能力は、卒業後どのような進路に進むのであれ、必ず役に立つはずである。

シラバス

【3年生】

春期：①社会学・心理学のテキストの講読。

②4年生のゼミ論のテーマ報告、ライフストーリー・インタビュー調査のケース報告を聴く

秋期：①引き続き社会学・心理学のテキストの講読

②ライフストーリー・インタビュー調査(1回目)

冬合宿：ライフストーリー・インタビューのケース報告

【4年生】

春期：①社会学・心理学のテキストの講読

②ゼミ論テーマ報告

③ライフストーリー・インタビュー調査(2回目)およびケース報告

秋合宿：ゼミ論の構想報告

秋期：①ゼミ論草稿の発表

教科書

大久保孝治『日常生活の探究』（左右社）、同『ライフストーリー分析』（学文社）

評価方法

平常点（授業・合宿での活動状況）とゼミ論によって評価する。

授業実施曜日・時限（予定）

金曜 5 限・6 限

3 年生は 5 限、4 年生は 6 限に自動登録されますが、実際の授業は、基本的に 5 限は 3 年生・4 年生
合同で、6 限は 3 年生・4 年生で分かれて行うので 5 限・6 限に他の科目を入れないようにして下さい。

週に一度、金曜日の夕方からは「ゼミの時間」と定めて、時間とエネルギーを投入してください。そ
ういう学生を待っています。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書（必須）
- ・2 年春学期までの成績を参考にする。
- ・これまで私の演習を履修したことのない学生については原則として面接を行う。



2013年8月12日 伊豆高原での3年生夏合宿からの帰りの電車の中で

7	担当教員	科目名	定員の目安
	大藪 泰	人間発達論ゼミ(子どもの関係発達論) 副題:人間の心の起源の探究と構想 プログラム:人間発達論	13 名

授業内容

人間は他の霊長類とは比較にならないほど豊かな文化的世界に生きている。豊かな文化を構築し、自分に深く気づき、見ることのできない他者の心の世界を表象できる人間に特有な心の仕組みはなぜ可能になったのか。それは人間の心を探求する者にとって最大の謎の一つである。このゼミでは、他者との間で豊かな共有世界を構築しようとする赤ちゃんの心に、その謎を解く糸口を見出そうとする。

赤ちゃんは、誕生直後より人を志向し、養育者からの共感的な関わりを足場にして、自分や他人に気づいていく。赤ちゃんには他者との関係性を深く体験し、そこから自他への特殊な気づきを生じさせる特異で有能な情動と認知の働きがある。子どもに備わる生物としての「ココロ」が、養育者との関係を基盤に、人間らしく文化化された「心」を獲得し発達させる過程を、次の2つの視点から問題にする。

第1は、子どもが固有にもつ能力と、他者との関係の中で生じる能力という視点である。このゼミでは、子ども自身がもつ個体能力を基盤にして、他者との関係性の中から出現する子どもの心の働きや発達に注目し検討する。「共同注意」「模倣」「アタッチメント」「自己理解」「他者理解」「嘘」「遊び」「言葉」「心の理論」「文化学習」など検討対象となる領域は多彩である。

第2は、定型的な発達をする健常児と、非定型的な発達をする発達障害児の視点である。2つのタイプの発達現象に触れることで、子どもの理解は格段に深まる。このゼミでは、定型発達と非定型発達を隔年で取り上げる。従って、3年時と4年時の2年間で両タイプの発達過程を学習することができる。

尚、健常児にせよ、発達障害児にせよ、子どもの理解には、実際の子どもとの接触が不可欠である。そうしたゼミ生の学習を支援するために、大学近辺の保育所や、発達障害児施設と連携し、学習するフィールドを確保している。机上の学習だけではなく、こうした施設へも積極的に出かけ、子どもの心を肌身で感じてほしい。また、36号館7階には発達心理学研究室があり、そこで実施されている観察実験もゼミ活動の一環である。子どもとの接触が可能なフィールドを自主的に開拓する意欲も期待する。

本年度(2014年度)は健常児の発達を検討の対象とする。(2013年度は自閉症児の発達を学習した。)

シラバス

【3年生】

春 期：①関係発達(定型発達もしくは非定型発達)のテキストの学習

②子どもの行動発達評価に関わる基礎学習

③保育現場などでの体験学習

夏休み：合宿を予定

秋 期：①論文検討や観察体験を踏まえた学習内容の報告と議論

②4年生のゼミ論中間報告の学習と議論

③保育現場などでの体験学習

④ゼミ論文集に中間報告を掲載

冬休み：合宿を予定(ゼミ論編集作業)

【4年生】

春 期：①関係発達（定型発達もしくは非定型発達）のテキストの学習

②ゼミ論のテーマ設定と作成準備

③保育現場などでの体験学習

夏休み：合宿を予定

秋 期：①ゼミ論の中間報告と議論

②ゼミ論へのゼミ生からの意見・疑問の
聴取とゼミ論内容の再検討

③ゼミ論文の執筆

冬休み：合宿を予定（ゼミ論編集作業）

夏季合宿のスナップ
（軽井沢セミナーハウス）



教科書

以下の書籍を予定している。

大藪 泰『赤ちゃんの心理学』日本評論社

トマセロ『心とことばの起源を探る－文化と認知－』勁草書房

参考文献

授業中に随時紹介する。

評価方法

平常点（ゼミでの活動、課題レポートなど）によって評価する。

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】2学年合同で月曜日6時限に行なう。

但し、ほぼ毎回、ディスカッション等で延長するので、7時限目は他の授業を入れないようにすること。

備考

夏と冬の2回、合宿（2泊3日）を予定している。また、「ポピンズナーサリー早稲田」と連携して、サポーターズクラブを組織し、ナーサリーの種々の保育行事に参加する。36号館7階の発達心理学研究室で子どもの社会的認知の発達に関する実験が行われる場合は、積極的な参加が求められる。子どもの心への好奇心が旺盛で、子どもの心の世界に思いを巡らせ、その世界を描き出したいと思う諸君のゼミ参加を期待する。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2年春学期までの成績を参考にする。

8	担当教員	科目名	定員の目安
	高橋 透	人間発達論ゼミ(クリエイティブ現代社会論) 副題：クリエイティブ現代社会論 プログラム：人間発達論	13 名

授業内容

【3 年生】

これから人間がどのように発達・発展を遂げていくのかをサイボーグ論の観点から見据えながら、後期資本主義あるいは情報化社会と言われる現代社会について様々な観点から考察し、新たな人間像ならびに社会像への視座を模索することをテーマとする。

具体的には、アニメ・マンガ論、映像論、現代社会論、先端技術論、サイボーグ論、現代思想研究、資本主義論、脳科学論、広告論、ごく初歩的な動画作成体験などを扱う予定ですが、ゼミ参加者の希望を優先します。

【4 年生】

これから人間がどのように発達・発展を遂げていくのかをサイボーグ論の観点から見据えながら、後期資本主義あるいは情報化社会と言われる現代社会について様々な観点から考察し、新たな人間像ならびに社会像への視座を模索することをテーマとする。

具体的には、アニメ・マンガ論、映像論、現代社会論、先端技術論、サイボーグ論、現代思想研究、資本主義論、脳科学論、広告論、ごく初歩的な動画作成体験などを扱う予定ですが、ゼミ参加者の希望を優先します。

シラバス

【3 年生】

3 年春期：各自テーマの紹介と発表；基本文献の輪読；プレゼンのための工夫（PPT 操作など）

3 年夏休み：基本文献を読む

3 年秋期：基本文献の読書報告と各自テーマの深化的発表；基本文献の輪読

3 年期末：プレゼミ論提出

3 年春休み：各自への課題文献の選定；ゼミ論へ向けての準備

【4 年生】

4 年春期：プレゼミ論講評会；ゼミ論のテーマ紹介と発表

4 年夏休み：課題文献読解を進行させつつ、ゼミ論を練り上げる

4 年秋期：ゼミ論を仕上げる

教科書

【3 年生】

上記の授業内容を実施するために、ゼミ生と相談の上決定します。

【4 年生】

上記の授業内容を実施するために、ゼミ生と相談の上決定します。

参考文献

【3年生】

教場で指示します。

【4年生】

教場で指示します。

評価方法

【3年生】

発表とプレゼミ論を中心に評価します。

なお、プレゼミ論は（それ以外も）、文字言語による論文と平行して、希望者は教員と相談のうえ、ヴィジュアル系作品などを提出しても OK です。

【4年生】

発表とゼミ論を中心に評価します。

なお、ゼミ論は（それ以外も）、文字言語による論文と平行して、希望者は教員と相談のうえ、ヴィジュアル系作品などを提出しても OK です。

ゼミ紹介

最近の脳科学の知見によれば、いろんな分野を組み合わせることで脳のクリエイティビティは活性化されるそうです。いまの世の中、知識もさることながら、クリエイティビティですね。そこで、ボクのゼミでは、このクリエイティビティの能力を養うことを主眼としたいと思います。そのためには、脳科学が勧めるように、各自のテーマに関連する領域を横断的に研究することで、一つのことでも様々な見えてくるのだという感覚を身につけつつ、クリエイティビティの能力を養いたいと考えています。

クリエイティビティという観点に基づいて、受講生と一緒に作り上げていくゼミを考えています。

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】金曜日 5 時間目。2 学年合同で行ないます。

選考方法

- ・ゼミ志望理由書
- ・2 年春学期までの成績を参考にする
- ・面接はおこなわない予定

9	担当教員	科目名	定員の目安
	小塩 真司	人間発達論ゼミ（現代人の心理） 副題：個人差と発達の両面に注目して人間のあり方を考える プログラム：人間発達論	13 名

授業内容

【3 年生】

現代人特有の心理的発達とは、どのようなものなのだろうか。このゼミでは、人びとの心理的個人差（性格・パーソナリティ、認知的プロセス等）にも目を向けつつ、現代社会を生きる人びとに共通する発達の变化について検討する。発達時期に関しては、主に青年期以降の時期に注目する。

人間の性格（パーソナリティ）にはどのような側面があるのか、どのように把握されるのか、どこにその起源があるのか、どのように変化していくのか、なぜ特定の性格の持ち主が適応・不適応状態に陥るのか。ゼミではこのような問題意識を持ちつつ、より詳細な個別の問題に取り組みたい。

各種の文献をあたることも重要ではあるが、実際に調査・実験・観察を行い、データの解析を進める中で実感されることは多いだろう。3年の秋学期には、受講者の興味・関心に基づきながら、いくつかのプロジェクトチームを作り、共同研究を進める試みを行う予定である。なお、データ解析が必要となる研究プロジェクトである場合が多いと予想される。統計処理パッケージ SPSS や R の使用については、もちろんサポートを行うが、各自で積極的に取り組んでもらう必要がある。

【4 年生】

4年次には各自の問題意識に立ち返り、ゼミ論の完成を目指す。3年次で取り組んだ課題を発展させても良いし、新たな課題に取り組んでも構わない。毎回の授業で進捗状況を発表してもらう予定である。

シラバス

【3 年生】

春期：心理学に関する文献（書籍および論文）の講読，ディスカッション，発表を行う。

秋期：グループによる共同研究プロジェクトを立ち上げ，研究を遂行する。

【4 年生】

春期：ゼミ論の経過発表を行う。

秋期：ゼミ論の経過発表を行う。

教科書

【3 年生】

受講生の状況に合わせてながら，授業内で指示する。

【4 年生】

受講生の状況に合わせてながら，授業内で指示する。

参考文献

当該テーマに関する担当教員の基本的な考え方を理解してもらうために，下記の本を参考にしてほしい。

小塩真司（2010）． はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険— ミネルヴァ書房

小塩真司（2011）． 性格を科学する心理学のはなし 新曜社

評価方法

【3年生】

平常点（ゼミでの活動や課題への取り組み）によって評価する。

【4年生】

平常点およびゼミ論文によって評価する。

授業実施曜日・時限（予定）

【3年生】【4年生】2学年合同で火曜日5時限に行う。論文指導等で延長する場合があるので、6限目も出席可能な体制をとること。

ゼミ紹介

2012年度からスタートしたゼミです。積極的に参加し、皆でゼミを盛り上げていってください。

研究には、統計的な分析手法を用いる機会が数多くあります。とはいえ、数式を覚えることは要求しません。研究室のwebサイト（<http://www.f.waseda.jp/oshio.at/>）にも統計教材がありますので、参照してください。

選考方法

1 次選考方法

ゼミ志望理由書、2年春学期までの成績、および面接を実施する。

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	○
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		

以上

10	担当教員	科目名	定員の目安
	増山 均	福祉社会論ゼミ (少子高齢社会論) 副題:少子高齢社会における well-being を求めて プログラム:福祉社会論	15 名

授業内容

【3年生】

少子化と高齢化が急激に進む日本社会に生きる私たちは、一世代にも満たない期間に生じた未曾有の「人口転換」の中で、人生・家族・地域にかかわるさまざまな局面と場面で、難しく新しい課題に直面している。授業では、さまざまなデータを通じて「少子・高齢化」の実態を捉えるとともに、それぞれの関心にそって、次の課題に注目して研究を進める。

①少子化問題をめぐって（出産・育児と子育て・労働環境・社会参加について、社会的な子育て支援のあり方）、②高齢化問題をめぐって（高齢者の介護・医療・年金などの社会福祉・社会保障について、高齢者の生きがい・生涯学習などの高齢者支援のあり方）、③世代間交流問題をめぐって（子どもと高齢者のかかわり、両者をつなぐ親世代の役割、社会的ネットワーク形成のあり方）

なお、以上の課題を考えるにあたって、具体的なとりくみに接し・関わる中で実践的に学ぶことが大切なので、「子ども」「高齢者」「世代間交流」にかかわる福祉・教育施設、市民NGO・NPO・ボランティア団体のとりくみに関する見学・調査・交流を位置づける。2014年度は、東京都中野区の「なかの生涯学習大学」（公的社会教育の講座）で学ぶ高齢者と交流し、合同ゼミナールの機会を持つ。



（なかの生涯学習大学の高齢者との合同ゼミ風景・なかのZEROにて）

【4年生】

前年度の学習を踏まえて、論文を書き上げる。その際、次の二つの方法を選択できる。①個人で独自のテーマを設定して「個人論文」をまとめる。②関連するテーマおよび方法論が共通する場合に、当事者同士で話し合い「グループ論文」をまとめる。

シラバス

以下は、当面の予定であり。ゼミの開始後に、ゼミ生と相談しながら学習の課題・内容・方法を確定していく。

【3年生】(学習の進度にそって関心あるテーマごとにグループを形成し、「サブ・ゼミナール」を進める)

春期：①少子・高齢化の実態をつかむ(統計・白書等を手がかりに)。

②少子・高齢化問題を検討するうえで手がかりとなる文献を講読する。

③社会福祉・生涯学習にかかわる基礎的文献の学習をする。

④中野区生涯学習大学の高齢者との合同ゼミナール(2回～3回程度)を行う。

夏休み：ゼミ合宿を予定している(その際に、「子ども」「高齢者」「世代間交流」施設のいずれかの見学・交流・体験学習を組み込む。2014年度の合宿では、公立保育園の乳幼児、職員、保護者との交流を予定している)。

秋期：①春期の学習と夏休みの体験学習をまとめる。

②「サブ・ゼミナール」ごとの研究発表を行い、レポートを検討する(そのプロセスを通じて、各自のテーマを煮詰めていく)。

③3年次『ゼミ報告集』を作成する。

【4年生】(ゼミ論文の作成にむけて、個人・グループ論文の作成を中心課題とする)

春期のゼミナール、夏休みの「ゼミ合宿」を通じて、論文のテーマ・構想・方法を順次発表・検討する。

秋期からは、個人またはグループ論文の執筆を進め、必要に応じて検討会を行う。

1月に「論文発表会」を行う。

教科書

ゼミの開始とともに、授業中に指示する。

エイジング総合研究センター編(2008)『改訂版 少子高齢社会の基礎知識』中央法規

川本敏編(2001)『論争・少子化日本』中公新書

広井良典(2006)『持続可能な福祉社会』ちくま新書

草野篤子他編著(2009)『世代間交流学の創造』あけび書房

参考文献

政府発表の『少子化社会白書』『高齢社会白書』、社会保障入門編集委員会編『社会保障入門』各年版、
『少子高齢社会総合統計年鑑』2011—2012年版 三冬社

広井良典編(2000)『「老人と子ども」統合ケア』中央法規

多湖光宗監修(2006)『幼老統合ケア』黎明書房

草野篤子他編著(2009)『世代間交流効果』三学出版

その他、専門の雑誌および学術論文などを授業中に紹介する。

評価方法

【3年生】

平常点(授業・合宿での課題へのとりくみ状況)および3年次の『ゼミ報告集』によって評価する。

【4年生】

平常点(授業・合宿での課題へのとりくみ状況)およびゼミ論文によって評価する。

授業実施曜日・時限(予定)

火曜日4、5時限【3年生】4時限に行なう。【4年生】5時限に行なう。

選考方法

・ゼミ志望理由書

・2年春学期までの成績を参考にする

11	担当教員	科目名	定員の目安
	岡部 耕典	福祉社会論ゼミ(ディスアビリティと現代) プログラム：福祉社会論	15 名

授業内容

ディスアビリティを切り口として現代と社会福祉について考えるゼミです。

「障害(disability)は社会的に構築されている(個人の属性ではない)」という考え方を「障害の社会モデル」と呼びます。イギリスの障害当事者運動から生まれたこの新しい障害観は、格差・貧困・差別・社会的排除などの現代社会の諸問題の解決を、“できなくされている人(disabled person)”の自己責任へと還元させず社会の側に対応を求めるポリティクスとして注目されています。

本ゼミでは、「障害の社会モデル」を手がかりとし、加速する新自由主義と閉塞する福祉国家を交響する公共圏へと再構築するために必要な「自由の平等」と新たな福祉のかたち(ケア・運動・政策・制度的再分配)について、読み／調べ／考えていきます。

まなざすことなく聴き発する問いが〈自足する明晰の世界〉を突き崩し、自らの〈生き方の窓〉をひらくことを期待しています。

シラバス

【3年生】

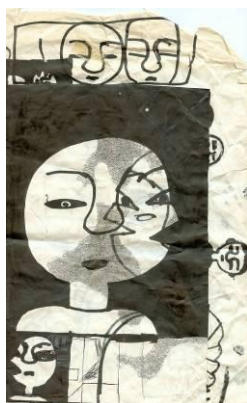
春期：文献講読とディスカッションを通じて基本概念や理論等を学びます。

秋期：文献研究やフィールドワーク等を通じて各人の問題意識を掘り下げます。

【4年生】

春期：文献講読及びゼミ論の予備研究を行います。

秋期：ゼミ論の研究／執筆／中間報告／完成させ、報告会の開催とゼミ論集を作成します。



教科書・参考文献

2013 年度講読文献 (予定を含む)

好井裕明「差別原論—“わたし”のなかの権力とつきあう」平凡社

好井裕明編「排除と差別の社会学」有斐閣

津田英二「物語としての発達／文化を介した教育」生活書院

石川准・長瀬修編著「障害学への招待」明石書店

※2014 年度については、確定メンバーの志望動機や関心領域などを踏まえて決定したいと思います。

評価方法

【3年生】平常点及び課題によって評価します。

【4年生】平常点及び春期末・秋期末のゼミ論報告を含むゼミ論への取り組みによって評価します。

関連 URL

- ・ http://www.f.waseda.jp/k_okabe/ 岡部耕典研究室
担当授業一覧、履修モデル、過去のゼミ論文（全文）、学内外の講演会等のお知らせ等を掲載。
- ・ <http://www.eft.gr.jp> イナッフ・フォア・トゥディ？
担当教員の研究や活動にかかわるデータベース。「ポスト障害者自立支援法の障害者政策」「見護るという介護のかたち」「関係性構築の消費／自由を担保する所得」「パーソナルアシスタンス☆フォーラム」等。

授業実施曜日・時限（予定）

【金曜日・3限】3年生を中心とする文献講読やディスカッションを行います。

【金曜日・4限】4年生を中心とする文献講読や研究指導指導を行います。

備考

- ・春／秋期末に3・4年合同の研究報告会及び懇親会を行います。♥秋期末は新ゼミ生もご招待！♥
- ・夏季には合宿を行います。
- ・ゼミ論集を作成します。ゼミ論は全文が以下の研究室ホームページに掲載されます。→[参考](#)

今年のゼミ論題目（予定）一覧（8月1日ゼミ論中間報告会現在）

「ロマンティックラブイデオロギーからの解放に向けて」「人工妊娠中絶を減らすために」「累犯高齢者はなぜ増え続けているのか——再犯を防止するには」「音楽と福祉の可能性——ベネズエラの音楽教育エル・システマから考える」「声を上げられる社会——「強姦」・「慰安婦」問題を中心に」「なぜ、死を選んではいけないのか：「死」の所在をめぐる考察」「これからの家族と社会保障制度——少子高齢化社会を超えて」「「生きづらさ」解消のために——ベーシック・インカムの可能性を探る」「「絶望の国の幸福な若者たち」について考える——本当に豊かな人生のために何が必要か」「現代の学校における〈いじめ〉の問題と対応」「地域共生に向けて」「“あそび”が病児に与える効果——ホスピタルクラウンとホスピタルキャラバンの実例から考える」「真の「男女平等」を実現する社会政策とは」「よりよい特別支援学級のあり方——インクルーシブ教育・発達保障を通して考える」「児童虐待の発見と支援——連鎖の防止に向けて」「外国人労働者から見た日本の労働環境・日本社会での働きにくさ——その問題点と対策」

選考方法

ゼミ志望理由書と2年春学期までの成績を参考にして選考します。





ゼミ論报告会・中間报告会



軽井沢合宿



卒業記念パーティ



学位記授与式

参考 早稲田大学文化構想学部現代人間論系 岡部ゼミ・ゼミ論文（全文掲載）

http://www.f.waseda.jp/k_okabe/semi-theses/

2012 年度

政治参加における討論型世論調査の有効性と地方自治体による市民参加の取り組みの重要性

「ハンセン病」を語り継ぐ意義 —差別に抗する人権教育として—

発達障害と「少年犯罪」

地域に「雇用」を生む仕組みを考える —発展途上国における取り組みからの考察—

DI 児の望ましい福祉 —非配偶者人工授精で生まれた子どもたち—

現代における新たなコミュニティの形とは —「ゆるやかなつながり」を求めて—

不幸な中絶を減らすために 児童虐待と現代社会 —女性がひとりで子どもを産んで育てられる社会—

働きたい女性が働きやすい社会とは —デンマークと日本の比較から見る子育て支援・雇用・教育—

難病者福祉 —病者の生の実際と新たな支援のかたち—

子ども・若者の貧困 —ベーシック・インカムとスクールソーシャルワークの可能性—

2011 年度

「ALS 患者の尊厳死」をめぐる —よりよく生きられる社会の在り方を考える

障害者スポーツとノーマライゼーション

見過ごされたケアの責任と平等 —リベラルな依存の公共哲学

ロシアの社会福祉 —体制転換期の高齢者の生活

「若者」の貧困と社会的排除に関して

現代における大学生の就職問題と労働への意義 —望ましい就職、支援とは

児童虐待と現代社会

知的障がい者との共生社会の実現

セクシャル・マイノリティの暮らしやすい社会を求めて —同性婚、ドメスティック・パートナー制度を通じて

日本における望ましい地域福祉 —スウェーデンとの比較からみる家族介護・ホームヘルプ

「無縁」にならず生きていけるような社会とは

生活保護ケースワーカーのあるべき姿について

知的障害当事者の生活の支援と地域社会 —えびすばれっとホームとたこの木クラブの生活を比較して

望ましい災害ボランティアの在り方 —阪神・淡路大震災と東日本大震災を通して

望ましい介護のあり方とは —認知症高齢者の在宅介護を通して

2010 年度

現代の家族とこれからの家族福祉

セクシュアル・ハラスメントと行為遂行性((パフォーマンス))

—キャサリン・マッキノンとジュディス・バトラーの議論を通じて

医療観察法の問題点と犯罪を犯した精神障害者の処遇の在り方

障害者の脱施設化および地域自立生活の意義

義務教育における特別支援教育とインクルーシブ教育の意義 —将来がひろがる教育とはなにか

集団生活を送る場としての学校のあり方 —現代のいじめ問題から見る子どもたちの変化

鉄道における交通弱者支援の現状と課題 —高齢者や障害者の外出促進に向けた一考察

日本の社会保障のあるべき姿についての一考察 —弱者にとってよりよい社会支援の在り方を求めて

12	担当教員	科目名	定員の目安
	石田 光規	関係構成論ゼミ（社会の変化と人間関係） 副題：地域コミュニティの実証分析 プログラム：関係構成論	13 名

授業内容

【3 年生】私たちの人間関係は社会の変化とともに大きく姿を変えてゆきます。戦後の高度経済成長とともに、その希薄化が長い間指摘されてきました。このゼミでは社会の変化と人間関係をテーマに、今後の関係構築、関係形成、善き社会のあり方について考察してゆきます。そのさい、特定の領域に絞り実証的に調査をしつつ、問題に迫るアプローチをとります。

2013 年度は関係再生の鍵とみなされている地域に焦点を当てます。具体的には高齢化の進む郊外都市、過疎化の進む山村地域のフィールド調査をもとに、今後の関係のあり方、地域の問題について読み解いてゆきます。

【4 年生】4 年生のゼミは本年は開設されません。

シラバス

【3 年生】

春学期

- 1) 文献輪読（社会の変化と人間関係に関する文献、地域に関する文献）
- 2) フィールド見学（振り替えで土曜日に実施する可能性があります）

夏休み 合宿（予定）

秋学期

- 1) グループに分かれてテーマ別に研究
- 2) 関係構成論の合同ゼミ、他大学との合同ゼミ（予定）
- 3) 報告書の作成

教科書

授業内で指定いたします。

参考文献

細野助博・中庭光彦，2010，『オーラル・ヒストリー 多摩ニュータウン』中央大学出版部。
大野晃，2005，『山村環境社会学序説——現代山村の限界集落化と流域共同管理』農文協。
広井良典，2009，『コミュニティを問いなおす』ちくま新書。

評価方法

授業内での発表、報告書などにより総合的に評価します。

関連 URL

総務省統計局のホームページで基礎的な官庁統計を収集する。

授業実施曜日・時限（予定）

木曜日 6 限に実施します。本年は 3 年生のみの授業となります。

履修モデル

社会学および社会調査に関連する科目を履修してください。自らの足で実際に調査をして社会現象を分析する力を身につけましょう。

ゼミ紹介

本年度から開講されるゼミです。担当者の専門領域である社会学を用いて、現在社会の変化、人間関係について考察する力を養っていきましょう。そうすると今まで見えていた風景と異なったものが見えてくるはずです。

備考

ゼミは皆さんの積極的な参加によって作られるものです。意欲的な学生の参加を望みます。

選考方法

項	選考方法	実施の場合は「○」
1	ゼミ志望理由書（必須）	○
2	2 年春学期までの成績を参考にする。	○
3	面接を行う。	
4	抽選による。	
5	その他（別途提出物を求めるなど）	
上記「その他」の内容：		

以 上